

発刊に寄せて

嘉納治五郎先生の生誕一五〇周年という意義深い時にあたり、私ども筑波大学としては、先生の業績を社会により深く知っていただくために、さらに先生のレガシーを見つめ、今後の国内外に果たす筑波大学の役割を考え、今後のあるべき大学像を考えるきっかけにするために、記念行事を行いました。その一つが本書『気概と行動の教育者 嘉納治五郎』の出版であります。

先生は、筑波大学の前身である高等師範学校および東京高等師範学校の校長を三期二三年余務められ、その間に多くの業績を残されました。東京高等師範学校の校長として、運動部や文化部などの課外活動の導入や、中等教育、教員養成にも新たな施策を積極的に取り入れ、教育改革を一貫して推進されました。「教育のこと、天下これより偉なるはなし、一人の徳教、広く万人に加わり、一世の化育、遠く百世に及べり」という先生の言は、今日の教育のあり方に、重要な提言を示してくれています。

先生は柔道の国際的な普及はもとより、アジア初の国際オリンピック委員会委員としても、日本やアジアのオリンピック・ムーブメントの発展に貢献されました。

さらに、先生は中国からの留学生を八〇〇名近く受け入れ、多くの人材を育てました。毛沢東の師となった楊昌涪や文豪魯迅など、後の中国を形成する人材を輩出しました。今日の中国の発展を考えると、未来を見据えて、実践されていたのでしょうか。私どもも、未来を常に見据えて、教育改革や留学生の受け入れを行った先生の業績を

継承していくべきだと思います。

筑波大学はIMAGINE THE FUTUREをモットーとしています。これは先生が既に一〇〇年前から実践されていたことでもあり、私たち筑波大学にDNAとして受け継がれていたのではないかと思う次第です。本書を通して、嘉納治五郎先生の行った幅広い業績と行動の足跡から、今後のわたしたちの進むべき道を模索する一助になれば幸いです。

最後になりましたが、本書を執筆してくださった方々、並びに本書の編纂を引き受けてくださいました筑波大学出版会に厚くお礼申し上げます。

二〇一一年三月

筑波大学長 山田信博